

## 二〇一九年度 高校推薦入試 作文問題

次の文章は「ネット依存 悩む学校現場」というタイトルの新聞記事の一部です。これを読んで後の問いに答えなさい。

子どもの「ネット依存」の影響が学校現場にも及んでいる。オンラインゲームにのめり込み、授業中に居眠りをしたり、成績が下がったり。教員らに対応に悩む。教員と生徒が一緒に解決策を考えるなど、手探りの試みが続く。

■担任「助言、ノウハウない」

「学校より、家でゲームをしていた方が楽しい！」

山梨県の小学校に通う4年生の男子児童は、生活態度を教員から注意されると、こう駄々をこねた。児童は授業中に落ち着きがなく、居眠りもし、会話の内容はオンラインゲームのことばかり。担任(56)が何度も注意をしたが、反発されてなかなか改善しない。

もともと落ち着きがなく、家族に相談した当初は「ゲーム中は静かにしていて良い子だから」と、取り合ってもらえなかった。だが、家族のクレジットカードを持ち出し、ゲーム上のアイテムなどを手に入れるために3万円分使ったことがわかり、家族も危機感を持った。ゲームを取り上げると叫んで暴れた。担任は「本人への対応や家族にどう助言できるのかのノウハウがない」と悩む。

石川県の中学教員(50)も「どのように生徒と保護者にアドバイスしたらいいのか」。生徒の中には居眠りが目立つ子もおり、「夜中もやめられなくて寝不足になった」と話しているという。こうした悩みは、ネット依存外来がある国立病院機構久里浜医療センター(神奈川県)が今夏開いた研修会で紹介された。

樋口進院長によると、ゲーム依存の広がりには、オンラインゲームが普及し始めた2010年ごろからだという。ゲームの内容が随時更新され、飽きが来ず、はまりやすいとされる。オンラインゲームができるスマホを子どもが持つようになるにつれ、学校現場の悩みの声も増えた。厚生労働省研究班の調べでは、「ネット依存」の疑いが強い中高生は全国に約93万人いる。5年前の調査より約40万人増えた。ネット依存のうち、多くはオンラインゲームへの依存だとされる。

■生徒の自覚促す取り組み 全校アンケート・昼の放送で注意喚起

家庭内だけでなく、学校生活にも影響が出ていることから、学校現場も対応に乗り出している。

横浜市立今宿中学校では2013年、養護教諭の岩永恵美さんの発案で、全校生徒へのアンケートでネットの利用時間を調べた。体調を崩して保健室を訪れる生徒に話を聞くと、オンラインゲームや動画視聴をやめられずに寝不足になっていることがあったからだ。

アンケートでは、学年が上がるほど利用時間は増え、3年生の4割以上が1日3時間以上利用。1年生でも8割以上がネットにつながるゲーム機を持っていた。

想像以上にネットを利用していると自覚した生徒に、メリットとデメリットを整理させた。そのうえで、生徒の代表が教員、保護者とネットとの付き合い方について意見を出し合った。

「自分でできること」「ルールを作ったほうがいいこと」「大人や家族に協力してほしいこと」に分類し、廊下などに貼り出した。ネットを使う時間を決めたり、テスト期間中は親にスマホを預かってもらったりするなどの意見も出た。保護者にも見てもらえるよう、文化祭でも紹介した。

アンケート以降も、定期的に昼の放送でネット依存に見られる兆候を紹介し、自分にどの程度当てはまるかを考えさせている。

岩永さんは「関心は高く、意見も多く出て自覚を持たせるきっかけになっている」と話す。

(『朝日新聞 平成30年11月1日朝刊』より)

問 ネット依存は社会問題にもなっていますが、これを解決するためにはどうしたらよいと思いますか。本文後半に記されている「自分でできること」「ルールを作ったほうがいいこと」「大人や家族に協力してほしいこと」という分類を使って、それぞれについて自分の意見をまとめなさい。自分自身の体験や、友だちの状況などの例を挙げながら具体的に記しなさい。(六〇〇〜八〇〇字・六〇分 題名などは書かずに行目から本文を書くこと)